

(別紙)

自己評価および外部評価結果結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に大きく掲げてあるが、毎日読みあげてはいない、理念の実践は、地域の中に浸透していることで、実践できて、きていると考えている。	玄関の掲示やパンフレットにより理念を周知している。千歳桜のように何千年にもわたり、健やかに生きていきたいとの思いを共有している。新規職員には継続して理念の周知に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や地域推進会議というように、地域での取り組みがまだ不十分ではあるが着々と実を結んでいるという実感はできている。	4か月に一度地域推進会議等を開催している。地域包括担当者、区長経験者等との交流を実施している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回数は少ないが地域での認知症に対する理解を深める目的で他の団体等の支援を得ながら講演や話し合いの機会を作っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の在り方にも踏み込んでみた。形からではなく、日々の生活そのものを見ていただく触れていただくそのような方法をとっている。	運営推進会議は地域推進会議として開催されている。食事の提案状況、試食体験等が報告されている。推進会議の結果についてはカンファレンスで改善する仕組みができている。最近の推進会議は21年9月10日に開催されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	とにかく市町村には頻りに足を運んでいる。また困ったこと等は短期間で対応できるように協力求めています。	山ノ内町の地域包括センターと連携を密にしている。また、山ノ内町から保健指導員の研修を受け入れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束はしない、しかし状況に応じてはせざるを得ない状況も考えて、指針マニュアルを作成している。	身体拘束について基本的には拘束しないことを指針マニュアル及び見学により確認した。また身体拘束については指針に従って個別に同意書で確認している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルは作成しています。この施設は基本的に認知症対応施設としての教育はしているつもりなので虐待等はないと信じている。		

グループホームさわやか千歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には3人ほど生活保護の対象者がいます。その方に対しても金銭管理は公的な方法として、社協の金銭管理が入っています。又権利擁護の研修も定期的に受けてもらっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項の説明書等十分説明はしているつもりですが、理解できているかどうか疑問です。又そのことについての質問や疑問はほとんどないといってもいいようです。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域性もあり家族や地域からの訴えや評価が少なく其の事が一つの課題でもあると考えています。	家族会と誕生会を兼ねて実施している。家族からの要望は少ないが利用調査からは利用したい時に柔軟に受け入れてくれる。アットホームな雰囲気があるとの意見が寄せられている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるだけ月1回のカンファレンス時に運営状態や経営状態の説明も行っている。	カンファレンス時や申し送りノートにより意見や提案を受け入れている。理事長からのインタビューでは意見や提案を話しやすい雰囲気がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成21年4月職務規定を大幅に改定し、有給休暇や、給与面等の改善をおこなって現在実施中である。又有資格者に対しては、資格に応じた手当支給も行っている。積極的な資格取得も取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修制度を利用し、研修の義務化と、研修日は勤務扱いとする等の工夫は行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信広域等の会にも積極的に参加し特に研修日はスタッフにも参加呼びかけできるだけ参加できるような勤務設定にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用初日はかなりの時間要しながら説明をしっかりと行い、スタッフにも各担当者をきめてかかわってもらう工夫をしている。又家族にはいつでも来ていただけるような環境作りも心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な説明と同意に心がけている。又家族会等の出席も呼び掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の対象者が全部違うように個々の方に対して何がいいのか模索しながら対応することは行ってきた。またこれからも行っていくつもりである。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	設立し5年目を迎える。試行錯誤、暗中模索しながらきたことには自信を持っている。かかわり方は日々変わるかもしれないが理念は変わってはいない。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の対象者は誰も一人で生まれてきたわけではないので今現在一人になってしまったとしても家族や親族とは、切っても切り離せない絆があることは理解している。家族はこの入居者と同じに大切だと考えている。切り離しては考えられない		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて、会いに来ていただけるように依頼している。また行きたいところ等出来るだけ配慮しながら、気持ちに沿うように対応している。	サービス担当者会議で検討しながら支援している。家族と協力しながらお墓まいり等の支援に努めている。また利用料の支払いを現金で行うようにし継続的に家族との絆を繋げる努力をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の対象者は病歴も生い立ちも違う事で接点を見つけにくい部分が多いが、ともに同じ場所で生活しているということはいつの間にか疑似家族の様な関係ができています。		

グループホームさわやか千歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後は接点が少なく難しいが狭い地域なのでいるんなとこで家族に会うことがある。そのような時はいつの間にか入居していたころに戻って話してしまう。しかしその後のフォローまでにはいたっていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとり違うということは基本的に考えている。プラン作成も、個々の状況に沿って立てカンファレンス行い、状況見ながら、モニタリング行い、必要に応じて再作成、継続等の判断は行っている。	センタ - 方式により心身の情報、暮らしの希望等の把握に努めている。また家族会より利用者の意向や希望を聞いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期はわかりにくかったことが生活を共にしていくことで、少しずつ理解できてきている。短期記憶については思い出せないが、昔楽しかったことは良く話してくれる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日必ず一回はバイタルサインを行い体調の管理はできている。協力医も週1回程度往診に来てくれる、状況によっては週、数回でも来てくれている。又個々の生活パターンの把握にも努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となって計画行い、状況に応じて、カンファレンスを行う。また定期的にもモニタリングも行い、ケアプランに沿ったケアに近づく努力はしている。	担当者会議を実施しカンファレンスを実施している。チームで介護計画とモニタリングを実施していることをケース記録により確認した。	センタ - 方式を導入しているが、記入や記録の方法については個人差があるケースがあった。職員の研修等による更なる継続的改善を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルがあり、毎日の状況の記録は行っている。昼間と夜間の記録は色を変えて記載している。入居者に対して介護者がどのように対応したか等をできるだけ細かな記載方法を取るよう促している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ともすると単一的になりがちだが出来るだけ、個別性や個々の対応になるように心掛けている。		

グループホームさわやか千歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	対象者によっては地域の会や集まり、ふれあい等、というような会に出席しているが、それも状態によりけりなところあり、重度になるほどに住民への参加等は難しく、できるだけ、施設に来ていただくような方法をとっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が往診をしてくれることで家族との時間もとっている。そのうえで、必要な説明も行ってもらっている。また必要に応じて受診の回数増加も行っていただきスタッフ、家族との接点を増やしている。	北志賀高原診療所と北信総合病院がかかりつけ医となっている。特に北志賀高原診療所とは定期的な往診や夜間での緊急時での対応があり密着した関係が築けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員がいることで日常の体調管理はできている。協力医やかかりつけ医との情報交換も行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開所時必要な協力医の選択の中に日常的にお世話になっている協力医と、ともに緊急時に依頼できる協力医は総合病院でお願いしている。1ヶ月以内での退院の時は受け入れは行ってきた。看取りもあり協力医との関係は良好と考えられる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた取り組みとしては、入居当初より、終末期の意向を聞いて、どなたからも、同意書をいただいている。医療体制加算を行っていることから、契約書と同等の意味を持っている。当施設においても3人の看取りを行ってきた。	看取りの指針を説明し確認を契約書で同意を得ている。看取りについてはチームで取り組んでおり夜間の対応についてもしっかりしている。看取りの対応について事例記録により確認した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の備えに対しては、年1回救急蘇生法の訓練を行っている。また他の利用者さんでの急変もあり対応方法は常に注意を払っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も定期的に行っているが、2階建てでもあり2階住居者の避難対応には苦慮している。平成19年2階非常口の避難階段横に避難滑り台設置し避難訓練兼ねて地域の方々にも披露し緊急時の協力をもとめてきた。	避難訓練を定期的実施している。また避難滑り台を設置し避難訓練を実施している。	消防署との連携は定期的実施している。地域の消防団との協力による身近な避難の協力者の援助、夜間の避難体制の訓練について次のステップを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや、人としての尊厳、みんな違いみんな一人の人と考えて対応することを日々心がけている。個々の入居者が個室でもあり、特に状態のいい方には、個室での対応を心がけている。	プライバシーに関するマニュアルがあり、個人情報についても配慮している。声掛けを中心に個人の人格を尊重している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな些細なことも行うまえに説明し同意を得ることを職員とも話し、実践するように指導している。できる限り自身で決めて行える環境作りを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ともすると職員ペースになりがちな行為や、支援をもっと利用者本意になるような方向性の確立になる様に努力をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴と更衣は日常的に、また担当スタッフが合う洋服選びも行っている。隔月に1回程度の割合で理容師さんが見えて髪をカットしてくれる。出来るだけ好みを重視しているが全員には無理がありお任せしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	専任の食事担当者がバラエティーに富んだ食事作りやカロリーを考えたメニューづくりを心がけている。また週1回程度お楽しみメニューとしてその時々で好みのものや、季節感の豊富な内容のメニューに取り組んでいる。	毎月の献立表を作成し、食事内容の検討会を実施している。また、口頭で好みを聞いている。手作りヨ-グルトやお楽しみ食など配慮している。家庭的雰囲気での食事の準備や片付けをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は必要に応じてチェックし、朝のカンファレンスでスタッフに浸透できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず義歯と口腔内の洗浄は行っている。また夜間は口腔ケアの後、義歯は洗浄液の中に漬けておくようにしている。		

グループホームさわやか千歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はおむつの使用はできるだけ行わず、トイレ誘導を時間ごとに行っている。	ケ - ス記録より一人ひとりの習慣を生かした排泄の自立支援をしていることを確認した。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックと下剤服用は不可欠となっている。状況に合わせて協力医やかかりつけ医の指示のもと内服している。又摂取物に対しては、自家製のヨーグルトや、乳飲量を定期的に進めている。食事はバランスの考えたメニューづくりに心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～から3回と決めてあるが、日時は決めていない状況に合わせて入浴している。ときには早朝だったり夜間も入浴することがある。	デイサ - ビスと共用しているが回数や時間についての制限はなく入浴できる。なじみの人が声掛けしながら入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝は個々の入居者さん方の意思に任せている。寝たい人は寝てもらい起きている人は自由でいいと考えている。又昼寝をした方たちに対しては、あまり長くないように時間をみはからい起床を促している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんは、ほぼ全員服用していることから服薬管理は不可欠と考えている。しっかり飲み込むまで確認している。またその後の状態の観察も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中では、軽度の方々は役割が決まっている。また重度の方々は軽作業で、できそうなことに関してはスタッフが一緒に行うことのできることもある。また季節によるが散歩や、近くに商店への買い物も気分転換の一環として行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の軽症の方は定期的に外出している。他の方々も、行事に沿って外出したり、家族に依頼して外出を促している	千歳桜のお花見、食事会、西小学校の運動会や音楽会など地域の人々と協力して出かけられよう支援している。	

グループホームさわやか千歳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	軽症の金銭管理が可能な対象者には外出時に限らずいくらか渡している。自己管理ができない方々には、ほしいものとか等家族に確認しながら施設サイドで購入する。また購入したものは月末領収書とともに、家族に渡し確認印をいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等の理解可能な方々には手配したり、依頼された時は代筆も行う。また電話の取り次ぎも行う。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に狭い空間での心地よさは期待できないが、できうる限り、心地よく生活できるような配慮は行っている。	共有の空間は椅子や音楽等で家庭的雰囲気ができるよう工夫している。お花を飾り空間を生かす努力をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂においては個々の座るスペースが決まっているので、テリトリーの侵害がないような配慮はしている。好きな場所の配慮も行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室はそれぞれがいちばん過ごしやすく生活しやすいように考えている。入居当時より持ってきている大切なものへの配慮も考えている。	各個室は遺牌やタンスなど大切にしてきたものの配慮している。また、ミシンで裁縫ができるようにしており好みを生かした生活になるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	半分以上の方々は、自力での生活能力が乏しい方もいるので、難しい部分が多いが、それでもできることと、できないことの線引きをしながらできることは時間がかかっても行うようにしている。		